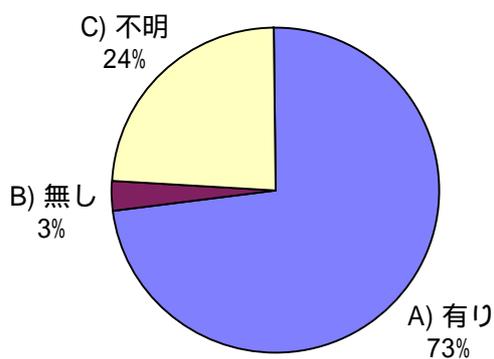


2.2.6 今後の見通し

選択項目	集計	H13	H12	H11	H10	H9
A) 有り	24	5	7	5	3	4
B) 無し	1				1	
C) 不明	8	3	1	2	2	
	33	8	8	7	6	4



選択項目	集計%	前回報告%
A) 有り	73	82
B) 無し	3	6
C) 不明	24	12

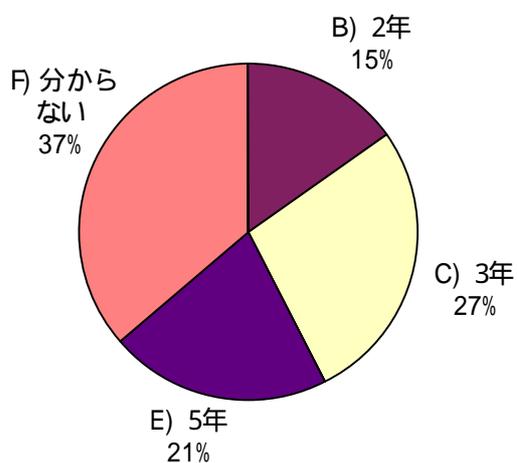
図表 2.2.6.1 助成テーマの今後の見通しは？（設問 10）と前回報告との比較

平成 9 年度に未記入が 1 名あった。

今後の見通しは A)有りと回答したいのが人情であろうが、前回報告よりも 10%程度減少し、その分 C)不明が増えている。研究の展開の見極めは困難を伴うので、調査対象年数が前回報告より 3 年分浅いことを考慮すると順当な結果であろう。

2.2.7 今後の見通しのおよその期間

選択項目	集計	H13	H12	H11	H10	H9
A) 1年	0					
B) 2年	5		3	1		1
C) 3年	9	2	2	1	1	3
D) 4年	0					
E) 5年	7	1	1	3	2	
F) 分からない	12	5	2	2	3	
G) 複数選択	0					
	33	8	8	7	6	4



選択項目	集計%	前回報告%
A) 1年	0	8
B) 2年	15	6
C) 3年	27	35
D) 4年	0	3
E) 5年	21	19
F) 分からない	37	26
G) 複数選択	0	3

図表 2.2.7.1 助成テーマの今後の見通しのおよその期間は？（設問 11）と前回報告との比較

平成 9 年度に未記入が 1 名あった。

今後の見通し期間は 3 年、5 年と多く、前回報告も同様なのは面白い。区切りのよい期間に集中していると見ることもできるし、本当のところは分からないのかも知れない。F)分からない

いが常に多いこともこれを物語っている。

助成テーマの今後の課題（設問 12）の記載を見ると、それぞれの研究に関して固有の問題点の記載が多いが、これは当然であろう。更には、成果を挙げつつある研究者が製品適用の機会を求めているケースが 1 件、医学系が工学系を、工学系が生物系を・・・の様に他分野の研究者を求めているケースが 2 件あった。

2.2.8 社会への貢献・応用分野

全般的には、それぞれの分野における進展（新技術・新材料・有効な手立て・設計指針・品質指針・基礎科学）であり、その分野での波及効果・応用が期待できるとの主張が殆んどであった。

また、具体的なものとしては、成果を CD 化、DVD 化して公表の予定、メーカーが成果を導入する意向を示している等が 3 件あった。